２０１７年（平成２９年）２月１日　水曜日

東奥日報新聞　１５面　掲載

第72回国民体育大会冬季大会「ながの銀嶺国体」のスケート・アイスホッケー競技会は最終日の31日、長野県で3競技を行った。県勢はアイスホッケー成年が北海道との決勝戦に臨み、4―6で敗れ2位。少年は3位決定戦で宮城に8―1で快勝した。スピードは成年女子3000㍍で藤尻萌美（八戸学院大）が2位に入り、県勢唯一の表彰台。少年男子5000㍍リレーは毛利宙太郎（八戸西）が4位、根城知哉一（同）が9位だった。成年男子5000㍍は根城将貴（八戸北出、信州大）が9位。少年男子2000㍍リレーは5位、少年女子同は7位入賞を果たした。スピード・アイスホッケー競技会終了時点の本県の男女総合成績（天皇杯得点）は123点で6位となり、前回の12位を六つ上回った。来年の第73回国体冬季大会は、スケートが山梨県、アイスホッケーが神奈川県で行われる。（本田海輝、松田啓志）

最終日

第72回 スケート 長野国体

スピード

澤尻（八学大）踏ん張り2位

成年女子3000

【スピード成年女子3000㍍決勝】懸命の滑りで2位に入った澤尻（八戸学院大、白帽子）＝長野市エムウエーブ

賞状

第72回国民体育大会 冬季大会

ながの銀嶺国体

藤尻 萌美 殿

「気持ちが体動かした」

ヒロイン。

「気持ちで負けるな。成年女子3000㍍の澤尻（八戸学院大）は、船場監督の言葉を胸に、最後の力を振り絞って2位。ゴールの瞬間は「よく覚えていないが、疲れがあった割には頑張れた。今回4本目の種目。レースを終え、満面に笑みをたたえた。

くじ運が悪く、不利なレーンからのスタートになった。体を動かしたのは2位に輝き、笑顔でガッツポーズの澤尻

う。しかしこの日は神様が味方したのか、引いたくじには「1」の文字。前列内側を引き当て、腹をある選手ばかり、300㍍の「のベース」を考えず、最初から行く」。ピストルと同時に一気に加速、先頭に立ち、順位がパーになる）。歯を食いしばり好位置をキープ。ラストスパートは「前に行くだけ」と155㌢の小柄な体を言い聞かせ使ってゴールに飛び込んだ。3位とはわずか0秒03差の大接戦。船場監督は「本当によく頑張った。褒めてあげたい」と目を細めた。

白樺学園（北海道）から八学大に進んだ1年生。全国大会での表彰台は、芽室めろ2（中同3年時の2位以来4年ぶりという。「少しでも青森に貢献できてよかった」と笑った。新天地でつかんだ全国大会での最高タイ成績に「次からは1位を狙っていきたい」と明るく宣言した。（本田海輝）

総評

アイスホッケー 成年と少年の奮闘光る

スピード 入賞7種目にとどまる

フィギュア 廣谷、大澤 将来性十分

ショートトラック 転向1年の西山に期待

【アイスホッケー】

表彰台を逃した前年の悔しさをバネに奮闘。成年は「銀」、少年は「銅」と、二つのメダルを獲得した。

若手大学生を加えた成年は、試合をこなすごとに成長。まとまりが生まれ、連係がさえた。ヤマ場と目された準決勝の東京戦では先制、中押し、ダメ押しと理想的な展開で快勝。決勝では強豪・北海道相手に終盤まで食らいつくしぶとさが印象的だった。これからの戦いぶりに期待したい。

少年は準決勝で栃木に逆転負け。11年ぶりの決勝進出まであと1点だった。風邪で体調不良を訴える選手が多く、けが人も続出。本番で存分に力を出せるよう、日頃の体調管理に十分留意し、周囲も目配りする必要がある。

【スピード】

前回を二つ下回る7種目の入賞にとどまった。少年男子は毛利信太郎（八戸西）が、2年生ながら1500㍍5位、5000㍍4位と、けがで途中リタイアした山本大史（同）を補う形で奮闘した。さらに技術に磨きをかけ、来年は表彰台を狙いたい。成年女子は澤尻麗華英（八戸学院大）が1500㍍5位、3000㍍5位と、二つの入賞となる6位に入った。

ともに昨年末の全日本選手権に出場するなど経験を積み、今大会は技術、表現力に磨きをかけた演技が目を引いた。前回国体も2人が出場し12位に終わっていることから、1年間での成長が結果として表れた格好。廣谷は1年生、大澤は2年生と将来性は十分だ。

【ショートトラック】

成年女子の西山夢乃（八戸西出、神奈川大）が県勢で唯一出場し、500㍍、1000㍍ともに準々決勝で敗退。スピードから転向して本格的に競技を始めまだ1年足らずで、成長に期待したい。

【フィギュア】

少年女子の廣谷帆香（八工大一）が総合12位、大澤陽（三沢）が同14位に食い込み、都道府県別成績で2年ぶりの入賞となる6位に入った。

男子は個人種目での入賞がゼロ。特に少年女子は2000㍍リレーで7位入賞を果たしたものの、個人種目では決勝に進むことができず、他県との差が際立った。

（本田海輝、松田啓志）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです